

# あさひ互近所ささえーる隊 R7年度 活動報告



# 社会福祉法人・住民有志による買物支援 「買い物に出かけよう」

## ～事業化して3年が経過～

### 【概要】

朝日地区内で買物に困っている高齢者等を対象に、住民ボランティアが地区内高齢者福祉施設の送迎用車両を使用し、商業施設までの送迎・付き添いを行う共助の取り組み。

### 【ポイント】

- 3カ年の実験期間を経て無理なく継続できる方法・仕組み（やる側ファースト）を構築し、R5年度より事業化。
- 民生委員・保健師等が直接声を掛けて参加者を募集。（本当に困っている高齢者を対象）
- 毎年6～11月に月1回のペースで年6回実施。
- 参加費として300円／人を徴収。賄いきれない経費は、朝日地区の5まちづくり協議会からの補助金で対応。（まち協との協働事業）

### 【実施体制】

使用車両：4台

スタッフ：8名（各車両に運転員1名＋添乗員1名の2名体制）

- ✓ 参加者のとりまとめ・連絡調整／送迎ルートの設定／ボランティアへの確保・連絡等は集落支援員が担当。
- ✓ 運転ボランティアは事前に安全運転講習を受講。



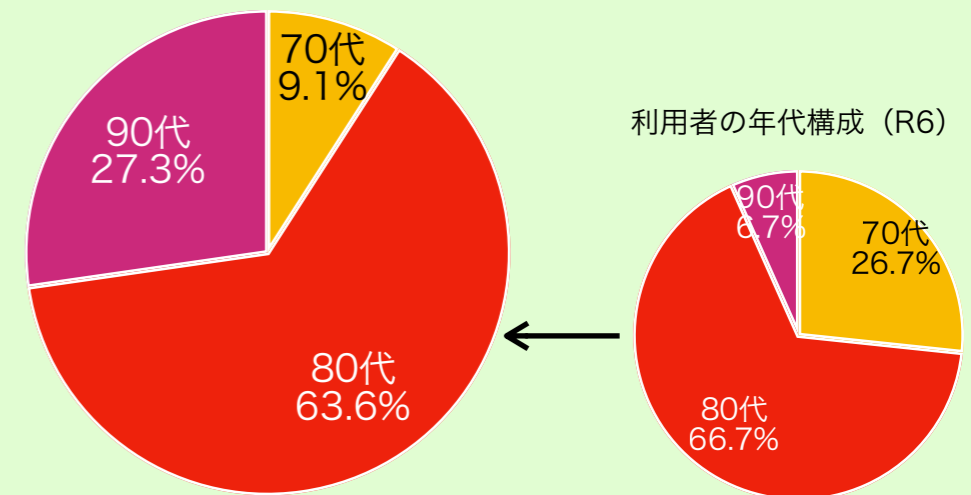
### 【R7年度の実績】

- 実施回数：5回（豪雨による中止1回）
- 参加人数：のべ45人（平均9人／回）

※R7実利用者数：11人

【R6】15人 ← 【R5】19人と減少傾向

利用者の年代構成（R7）



- ボランティア登録者数：23名

（内訳）運転ボラ：7人（【R6】10人 ← 【R5】11人）  
添乗ボラ：12人（【R6】11人 ← 【R5】6人）  
両方可：4人（【R6】3人 ← 【R5】2人）

# 3年が経過して見えてきた課題と今後の展望

- 利用者はほぼ固定化。  
⇒本事業は「セーフティネット」的な事業であるためあまり問題視していない。
- 利用者数の減少＝参加者の裾野の拡大ができていないということ。  
⇒R7年度はボランティアの負担を考慮し、要支援認定者の参加はお断りしていたが、R8年度からはこの条件を緩和する。
- 裾野の拡大ができていない＝区長・民生委員への周知が不足している。  
⇒継続して周知活動に注力（説明機会を増やす）
- 運転ボランティアの高齢化が進んでいる。  
⇒運転ボランティアは原則75歳を上限に  
⇒常にボランティアの発掘・確保に注力して対応



【R8年度新規事業】

# 高齢者の新たな居場所づくりプロジェクト

## 【背景】

朝日地区では、75歳以上の要支援1・2の認定者数が増加傾向。同時に同居家族からの相談（特に高齢男性に関する内容）も増加。

⇒こうした方々の多くは「地域の茶の間」には参加しない。

⇒地域の茶の間とは異なる「居場所」があれば、外出機会の増加につながり、健康寿命の延伸に寄与できるのではないかと？

## 【取り組みの方向性】

大きな負担無く手軽に開設できる「居場所」のあり方・やり方について、実験的に場・機会を設けながら模索していく。



（参考）大阪市北区・中津地域社会福祉協議会が実施している「カフェ・コンパレ」。コンパレとはイタリア語で「おっさん」という意味。男性（おっさん）中心のスタッフがサービスと焙煎コーヒー（体験OK）を提供。囲碁・将棋の他、水墨画教室の開催など、オープンで温かいカフェ形式の居場所。